

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：英語グローバル学科

資格：講師

氏名：C. M. エドルマ

研究分野		研究内容のキーワード	
応用言語学，第二言語習得		外来語，第一言語影響	
学位		最終学歴	
博士(応用言語学)		テンブル大学（教育研究科）	
教育上の能力に関する事項			
事項		年月日	概要
1 教育方法の実践例			
1.教育方法		2004年～現在	私の指導法は、教育上の期待や指示を明確にしながらも、親しみやすくフレンドリーであることです。日本での英語教育について言えば、実践的な語学力に加えて、生徒が自分自身の能力に自信を持てるようにすることも同様に重要であると感じています。グループワークやペアワークを取り入れ、生徒が英語を使って議論したり、討論したり、創造したりすることを楽しめるような、コミュニケーション能力の高い活発な雰囲気育てています。
2 作成した教科書、教材			
1. 関西学院大学		2019年現在	（関西学院大学） 学習目標を補い、支援するためのオリジナル教材を作成。プレゼンテーションスキルに焦点をあてた夏期集中講座の構築、監督、評価。
2.Blue Sky Elementary 6〔令和2年度改訂〕 小学校用 文部科学省検定済教科書		2019年	文部科学省検定済み教科書。監修者として出版社のスタッフや他の教育関係者とともに作成。
3.Blue Sky Elementary 5 〔令和2年度改訂〕 小学校用 文部科学省検定済教科書		2019年	文部科学省検定済み教科書。監修者として出版社のスタッフや他の教育関係者とともに作成。
4.CADET Program Academic Achievement		2018年現在	（大阪大学） 学生の学習を支援するオリジナル教材を作成。CADETプログラムの成果を紹介する社内報「CADET Program Academic Achievement」を作成・編集。
5.English Expeditions Reading and Listening Skills BA/IL		2017年	理工系大学生を対象とした内容重視のカリキュラムの一環として作成され、初中級レベルのリスニングとリーディングのスキルに重点を置いている。
6.English Expeditions Reading and Listening Skills IH/AD		2017年	理工系大学生を対象とした内容重視のカリキュラムの一環として作成されたテキストで、中上級レベルのリスニングとリーディングのスキルに重点を置いている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項			
1. 関西学院大学		2019年2023年	アカデミックライティング、リーディング、コミュニケーションの授業を担当。入試チェックの補助。
2. 大阪大学		2018年2024	CADETプログラム（英語で研究報告、発表、共同研究ができる日本人科学者の育成を目的とした政府出資の大学院生向けプログラム）で、リサーチライティングとプレゼンテーションを指導。
3. 京都産業大学		2015年～現在	アカデミックライティング、リーディング、コミュニケーション、TOEFL、プレゼンテーションのクラスを担当。それぞれの授業では、学部が定めたカリキュラムの枠組みに沿って、自分で教材を作成。
4. 立命館大学		2014年2019年	英語コミュニケーション、ライティング、リーディング、リスニング、TOEIC、CALLの授業に携わる。また、理系学部生を対象としたオリジナル教材の作成。
5. 姫路獨協大学		2013年2014年	英語専攻の学生を対象に、内容重視の集中講義を作成、実施。試験監督、学科業務の補助。
6. ベルリッツ・ジャパン		2007年2013年	英会話、ビジネス英語、TESOL、TOEIC、IELTSを、学校内や企業・大学の現場で、個人または大人数に対して指導。
7. NOVA英会話		2005年2007年	英会話教室の講師、子供向け英会話教室の講師、講師トレーニング、日本人スタッフと講師の間のコーディネート。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
8. フランクリン中学校マグネットスクール	2004年2005年	学年別の音楽カリキュラムの作成、特別イベントの開催、州の教育基準の維持、他の音楽教師の監督、合唱プログラムの指導と運営。
4 その他		
1. 第40回武庫川学院英語オラトリカルコンテスト	2024年11月	大学英語スピーチコンテストの原稿確認、スピーチ練習、審査員。
2. 女性活躍総合研究所 グローバル化推進部門	2024年4月	私は会議に出席し、英語のワークショップを企画・実施した。
3. 女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム	2024年4月	私は会議に出席し、ワークショップを企画・実施し、国際会議で発表した。
4. MEC委員会	2024年	ミーティングに参加した、クリスマス・パーティーを計画した
5. 第39回武庫川学院英語オラトリカルコンテスト	2023年11月	大学英語スピーチコンテストの原稿確認、スピーチ練習、審査員。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. Cross-Linguistic Influences on English Loanword Learnability in the Japanese Context		2022年12月	テンブル大学 大学院の博士論文(博士)	日本人学習者の英語由来借用語の英語的意味に対する知識について調査。
3 学術論文				
1. Motivation, Self-Efficacy, and Perceived Importance of English: Predictors of Performance?	共	2022年12月	Kwansei Gakuin University Humanities Review, Vol. 27, p. 117-130.	本研究は、先行研究を発展させたものである。モチベーション、自己効力感、英語の重要性の認知を要因として用い、4つのスキルの経時的測定を従属変数として用いる。
2. Media as Input: Exploring Student Use of English-Language Media Outside the Classroom	共	2022年3月	The Language Teacher Vol. 46 (2), 3-8.	関西の主要8大学の学生1,100名を対象に、教室外での英語学習について、利用可能なメディアを用いた調査を行った結果を報告。その結果、自発的な英語への接触は予想以上に少なく、日本語のメディアを利用する学生が圧倒的に多いことが明らかになった。
3. Assessing the Efficacy of Extensive Reading During Study Abroad: A Time and Place for ER?	共	2020年6月	International Journal of Learning, Teaching, and Educational Research. vol.19 (6), 251-266.	留学体験に参加した2つの異なるグループの意識と情動の状態を比較した結果について説明。その結果、環境が多読に関する学習者の信念に大きな影響を与えることがわかった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. Self-Efficacy, Motivation, and Perceived Importance of English as an L2 Among Japanese University Students	共	2018年7月	The Language Teacher. vol.42 (4), 13-18.	L2の大学生の4技能における自己効力感（英語を学ぶことの重要性やモチベーション）の関係性を研究。
5. Assessing the Efficacy of Dictation Exercises to Improve SLA	共	2017年12月	Language Education in Asia. vol.8(1), 67-83.	スペースディクテーション練習の有効性に関する介入研究。スペースディクテーションは学習者のリスニング能力向上に明確に影響することが認められた。
6. Assessing the effects of interactive blogging on student participation	共	2015年6月	Osaka JALT Journal vol.2, 62-77.	1セメスターを通じ収集したデータを分析し、学習者の授業参加意欲を上げるためにコンピューターコミュニケーションを使用することについて調査。
7. Teaching Philosophy: Why I Made the Right Choice with CBI	単	2015年5月	Explorations in Teacher Education. Vol. 22, Issue 1. pp. 13-pp.14.	CBIの教材を使つての体験と、生徒の成績に与えた影響について説明。
8. The case for cooperative learning and interaction in CBI	単	2014年2月	The Journal of the College of Foreign Languages Himeji Dokkyo University -No. 27, 55-62.	コンテンツベースラーニング環境での学習者間交流の効果について説明。
9. Music: A motivator for underachieving EFL students?	共	2014年2月	The Journal of the College of Foreign Languages Himeji Dokkyo University. No. 27, 49-55.	成績の振るわない学習者のモチベーションを上げるため授業に音楽を取り入れることの効果について分析。
10. Implementing strategies to facilitate oral communication	単	2012年8月	Studies in Applied Linguistics, Temple University, No. 79, 91-98.	クラスルーム活動において、学習者のオーラルコミュニケーションを最大限に引き出すためのステップとその効果について説明。
11. A fair and balanced view of the Berlitz Method	単	2012年8月	Studies in Applied Linguistics, Temple University, No. 77, 25-27.	ダイレクトメソッドおよびベルリッツメソッドの使用と実用的応用について分析。
12. English business information - gap pronunciation activity	単	2012年5月	Studies in Applied Linguistics, Temple University, No. 74, 1-3.	発音に関して学習者の意識を高めるためのペアワークの使用について説明。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. BOOM SNAP CLAP -	単	2018年7月	奈良教育大学	奈良教育大学で開催された小・中学校の先生方を対象としたセミ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
Using Rhythm in the English Classroom			teacher training seminar	ナーを実施。簡単にリズムカルなアクティビティを使って、英語学習を楽しくインタラクティブなものにすることに焦点を当てた。
2. 学会発表				
1. Developing English Presentation and Speaking Skills in an International and Academic Context	共	2025年2月	CAMTESOL, カンボジア、プノンペン	本発表では、日本の女子大学で行われた一連のワークショップの創設、実施、そしてその結果について報告する。
2. Media as Input: Do Students Make use of what' s Available?	共	2020年2月	CAMTESOL, カンボジア プノンペン	関西の主要8大学の学生1,100名を対象に、教室外で利用可能なメディアを通じた英語への接触について調査を行った結果を報告。その結果、自発的な英語への接触は予想以上に少なく、日本語のメディアを利用する学生が圧倒的に多いことが明らかになった。
3. Investigating the Effects of Loanwords on Japanese Learner English Acquisition	単	2019年2月	テンブル大学応用言語学コロキウム	日本語の借用語である英語語彙に関するリーセンマンティック知識の精度に関する研究結果を報告。
4. BOOM SNAP CLAP - Using Rhythm in the English Classroom	共	2018年2月	CAMTESOL, カンボジア プノンペン	小学校における英語の授業をより能動的にするために、小学校教員への韻やチャンツの使い方を訓練するワークショップを実施。
5. Assessing the Efficacy of Dictation Exercises to Improve SLA Listening in Japan	共	2017年2月	CAMTESOL, カンボジア プノンペン	教室におけるスペースディクテーションの活用（リスニング能力能力向上のため）の結果についてプレゼンテーションを実施。
6. Transforming Pedagogy with Andragogy Models	共	2016年11月	JALT全国大会、名古屋	成人教育において、アンドラゴジーモデルの活用とペダゴジーモデルの活用の比較についてプレゼンテーションを実施。
7. Identity Construction of Postgraduate Students	共	2015年11月	JALT全国大会、静岡	博士課程の学生から取ったデータを使い、定性的評価解説法に基づき、物語の活用についてディスカッションを実施。
8. Motivating Students with Content Based Instruction	単	2014年7月	関西国際大学 サマーセミナー	従来スタイルの語学授業との比較における、コンテンツベースの語学授業の効果についてプレゼンテーションを実施。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2015年9月～現在		Golden Key International Society 会員		
2. 2015年9月～現在		Psychometric Society 会員		
3. 2012年～現在		Japan Association of Language Teachers (JALT) 会員		